

# にも通信

Vol. 12

令和5年度 第12号  
令和6年3月吉日

にも  
包括

精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らせることができるよう、包括的なシステムを構築していく取り組み

発行：相模原市精神保健福祉課

今号では前号でもご紹介した「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進連絡会議（通称：協議の場）」の内容を引き続きご紹介したいと思います。令和6年2月29日に行われた協議の場では、市内の相談支援事業所による“地域移行支援の実際”についてご報告いただきました。「地域移行支援」については協議の場においても繰り返し取り上げ、にも包括の構築の重要な構成要素とされています。今回は「地域移行支援」という言葉の理解を超え、その中身にまで踏み込んだ報告となりました。

## 地域移行支援とは…

障害者支援施設や精神科病院等に入所又は入院している障害者を対象に、住居の確保、地域生活へ移行するための準備や福祉サービスの見学・体験のための同行支援、地域における生活に移行するための活動に関する相談等の支援

### ☆ポイント☆

1年未満の入院者でも地域移行支援の対象となることがあります!!New long stay を生まないがキーワード

## 対象者…

精神科病院（精神科病院以外で精神病室が設けられている病院を含む）に入院している精神障害者➡長期に入院していることから支援の必要性が相対的に高いと見込まれる**1年以上の入院者を中心に対象**

※ 1年未満の入院者は、特に支援が必要な者（措置入院や医療保護入院から退院する者で住居の確保などの支援を必要とするものや 地域移行支援を行わなければ入院の長期化が見込まれる者など）

“地域移行支援の実際”として、地域活動支援センターカミング、らっく相談支援事業所、ともに会相談支援事業所、基幹相談支援センターの4つの事業所の皆さまからご報告いただきました。

らっくさんからの報告では、最も多い利用者の入院年数が1年以上2年未満であることや、市外の病院からの依頼もあること、主な転帰（退院先）としてグループホームが多いことなどが分かりました。

“実際”の支援内容は、退院を見据えたものが中心となり、社会資源や福祉サービスの説明、見学体験の同行・調整等を行うとともに、退院後の定着に向けた金銭や服薬管理、買い物や困りごとの支援などが含まれます。しかし、退院に向けた希望や課題は人それぞれであり、利用者の意向に十分耳を傾けながら一緒に取り組んでいる姿が印象的でした。



▲ 報告をするらっく相談支援事業所の坪内さん

## 地域移行支援を進めるポイント

- ◆ 本当はどう思っているのか、本音を話してくれているかなど、信頼関係を構築すること
- ◆ できないことについて、相談員から伝えるのではなく、本人と一緒に確認するサポートする姿勢で臨むこと
- ◆ 顔の見える関係の中で、不調時の相談ができるような体制は本人や相談員の安心につながる。特に入院が検討されるような危機的な状況の時には、医療としての見立てや支援方針ができる医療者は重要な存在
- ◆ 一人ひとりが豊かな個性を持った人であり、多角的なアセスメントを取り、共有すること
- ◆ 必要な支援の輪を拡大させ、一人で抱え込まないこと
- ◆ 同じ情報でも病院と地域では視点の違いがあることも。支援方針はあくまでも見立てであり、生活の中で繰り返しアセスメントを行っていくこと

## もう一つの実例

- ◆ 現在、地域移行支援の指定を受けている相談支援事業所が相模原市内で23事業所あります
- ◆ 1事業所が1件地域移行支援を行うと23人が退院に繋がります。一緒に取り組んでみませんか?? ぜひお声がけください♪

# 取材に行ってみた

今回の〇〇さんに聞いてみた、は緑区にある地域活動支援センターすべす・あいの杉立さんよりイベント情報をいただき、取材に行ってみましたので、その様子を報告したいと思います。

今回行ったのは、橋本駅前にある大型ショッピングセンター「アリオ橋本」さん。初めての取材にドキドキしながら、どのようなイベントなのか楽しみにしていました。

迎えてくれたのは、㈱ユニークK代表の杵渕さん(以後、敬省略)。イベント開催の経緯や想い、今後の展望などについてお伺いしました。

(どのようなイベントですか?)

杵渕 障害者事業所向けの「春の苔玉作り」というワークショップを開催しています。事前予約制で参加費は無料です。手指を動かしてもらい創作活動を楽しんでもらえたらと思います。

(苔玉興味あります。開催にあたっての経緯を教えてください)

杵渕 元々館内の装飾に携わっていた縁もあり、何かワークショップのようなのができないかと考えていました。高齢者や子どもを対象に開催していましたが、障害をもつ方も参加してほしいと考える、アリオ橋本さんに提案したところ賛同していただきました。

▼ユニークKのスタッフの皆さん



(企業の協力が得られたことは大きいですね)

杵渕 そうなんです。何かやりたいと思っても、それがボランティアになると長続きすることが難しい。企業様のご理解とご協力があることで長く続けることができます。何事も続けていくことが大切だと考えています。

アリオ橋本さんからも「このような機会をどんどん知ってもらいたい」「障害のある方でも気軽にイベントに参加して楽しんでほしい」という思いを伺っています。社会貢献という点でも、大変意義深いもののご理解いただいています。

(イベントを始めようと思ったときにまず行ったことは何ですか)

杵渕 どこから始めようかと思いましたが、アリオ橋本さんの近くですべす・あいさんがあること、外に出ていくレクを行っていることを知りました。ワークショップも訪問型で行うのではなく、外に出ること、来てもらうことが大切だと考えていましたので、まずは杉立さんにコンタクトを取り、そこから障害者さんに繋いでいただき、周知をお願いしています。

(場所もアリオ橋本さんのご真ん中なので人の目にも留まりますね)

杵渕 はい。何をやっているのかと足を留めて見て下さる方もいらっしゃると思いますが、飛び入りの参加はできないのですが、知ってもらうことも一つだと考えています。最近ではお知らせしていなかった、放課後デイの利用者さんの参加もあり、当初とは雰囲気も変わってきています。今後はこちらのイベントを元に色々と発展させていきたいと思っています。

杵渕さん、お忙しい中取材対応いただきありがとうございます。さて、今回繋いでいただいた杉立さんにもお話を伺ってみました。



▲参加者の皆さんと苔玉  
「2個目の方がうまくできた」  
「苔に糸を巻き付けるのがチャーシューを作ってるみたいだった」

(杵渕さんからお話を聞いた時にはどのように思われましたか)

杉立 ビックリしたのが正直な感想です。なぜ、すべす・あいに電話をくださったのが不思議でした。

杵渕さんからお子さんや高齢者の方、そして何よりも障害をお持ちの方々への想いを伺って、是非関わっていただきたいと思いました。

(杵渕さんからお話を聞いた時にはどのように思われましたか)

杉立 当初、橋本周辺の施設への声掛けをお願いされたのですが、素敵な内容のイベントだったので相模原市内の施設を対象にした方がよいと思い、障害連(障害者地域作業等連絡協議会)の事務局の方にお願ひして募集をかけて頂きました。

利用者さんだけではなく職員さんもとても楽しんでお花を活けているのを見ています。イベントに関わって良かったなと思いましたが、ご家族の方にも楽しんで頂けるそうです。これからも沢山の方にフラワー教室に参加して頂きたいと思っています。

## 研修報告

### 令和5年度地域移行支援ピアサポーターフォローアップ研修

相模原市では、長期入院の精神障害者の地域移行を推進することを目的として、平成29年から地域移行支援ピアサポーターの養成を開始しました。全6回のプログラムではピアサポート活動の実際やSSTを交えた演習などに取組みました。これまでの活動として、病院に向かいての交歓会や地域の研修会でリカバリーヒストリーを発表したりしています。

今回、地域移行支援ピアサポーターへのフォローアップを目的として、「コミュニケーションの基本と傾聴・共感」というテーマで研修を開催しました。講師にはSST普及協会認定講師の岡田澄恵さんをお招きし、傾聴や共感に重きを置いたコミュニケーションを学びました。

参加者からは、「実践的な練習があり分かりやすかった」、「とても勉強になった」などの感想が聞かれました。今後もピアサポーターの皆様に関係する研修を企画していきたいと思っております!

地域移行支援ピアサポーターについて詳しく聞きたいという場合には、精神保健福祉課までご連絡ください!

(精神保健福祉センター 宮本)



次回予定は  
コチラから



## 編集後記

今年度のにも包括協議の場では主に“地域移行支援”について理解を深める取組みを行いました。今後はより具体的な実践に繋がるよう、引き続きご協力いただければと思います。

はじめての取材も行いました。やはり外にでて実際に見て、聞いて、ふれ合うことはとても大切だと感じました。次はどこにお邪魔しようかと楽しみにしています。

にも包括は支援機関の皆さまや地域の人たちとともに創り上げていくものです。

事務局では、地域で取り組んでいる活動や耳より情報、好事例などを広く募集しています。

電話でもメールでも構いません。ご意見・ご感想も含めてお待ちしております!!

<精神保健福祉課> ☎ 042-769-9813

✉ seishinhoken@city.sagamihara.kanagawa.jp

